



「福原地区体育祭」は、今年で67回目を迎える伝統の体育祭です。福原教育振興会、各自治会、体育協力員連絡協議会、交通安全母の会等が協力し、毎年10月の第1日曜日にスポーツパーク福原グラウンドで開催されています。福原地区約2万人のうち、子どもからお年寄りまで約2,000人が参加する地区をあげての体育祭です。

昨年は、親子でのパン食い競走、消防団員のホース巻きリレー、福寿クラブのボール送り競走等の20種目が行われました。中でも、字町対抗の綱引きは大変盛り上がり、近所の人同士が声を上げて精いっぱい応援を行っていました。また、昼食時には中台・今福の隣子も披露されました。



福原地区の22の自治会は、普段は地域の活動や伝統行事を行っていますが、この体育祭は、自治会や各団体の枠を超え、地域が一体化する事業です。老若男女さまざまな方が参加協力することによって、地域に強い連帯感を育み、住民一人ひとりが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担っています。

市民とともにつくる

安全で安心なまち川越

防災危機管理課 224-5554

各自の地震対策①

地震はいつ、どこで起こるかわかりません。日ごろからの準備が被害を最小限に抑えます。これから2回にわたって、自分でできる地震対策を紹介していきます。

● 家の中の被害を軽減するために

● 家具の転倒防止
長時間を過ごす居間や寝室にある大きな家具などをL型金物などで固定する

● 避難経路の確認

逃げ道に避難の妨げになるものがないか、家具の配置などを点検する

● 窓ガラスの飛散防止

飛散防止フィルムを貼り、割れたガラスによるけがを防ぐ

● 地震発生、その時のために

万が一の際に、少しでも冷静に行動できるように、日ごろから対処方法をイメージしておきましょう。

● 大きな揺れを感じたら頭を守る

● 揺れが落ち着くまではむやみに動かない

● 外に出るときは頭上からの落下物に気を配る

地震発生時にできることはとても少ないからこそ、事前の対策が重要です。



ごみ処理とびつくす

乾電池 黄色い袋でリサイクル!

資源循環推進課 239-6267

有害ごみである使用済み乾電池は、成分のほぼ100%をリサイクルすることが可能です。回収された乾電池は亜鉛や鉄等に生まれ変わり、再利用されます。しかし、リモコンや時計等の電子機器の中に入ったまま、不燃ごみに混入した状態で排出されていることがあります。そのため清掃センターでは、不燃ごみの中に混入したままの乾電池を1本1本手作業で取り出しています。乾電池は不燃ごみと分けて、「有害ごみ」用の黄色い保管袋に入れて排出してください。保管袋は年に一度、自治会を通じて配布しています。また、市民課・市民センター・南連絡所・収集管理課にて、随時無料でお渡ししています。乾電池の分別に、皆さんのご協力をお願いします。



「川越市ごみ分別アプリ」配信中!

ごみ出しに関する情報を手軽に確認できる、スマートフォン向けアプリを配信しています。なお、アプリは無料ですが、インターネット接続などにかかる費用は利用者の負担となります。

● iPhone 版



● Android 版





市長からの手紙

41 職員ミーティング

市長に就任してから、職員と顔を合わせて話を聞く「職員ミーティング」を開いています。平成21年7月1日に第1回を行い、今日(8月20日)までに115回実施しました。

川越市には、行政職(事務職、技術職、保育士)、技能労務職を合わせると約2,300人の正規職員がいます。部長・課長とは、決裁や打ち合せ等で顔を合わせて話をする機会がたくさんあります。しかし、主事補から副課長までは直接面談する機会はほとんどなく、多くの職員について人柄や仕事を直接知ることはおろか、顔を合わせる機会も極めて限られるというのが現状です。

そこで、職員と直接話をする機会として、職員ミーティングを開始し、これまでに約1,400人の職員に参加してもらいました。ミーティングの形式は、一度に平均すると

12人くらいの職員に市長室に来てもらい、1人3分程度の話をしてもらいます。

話の内容については、自由としています。ミーティングの始めに「話すことは、仕事のことも家庭のことも趣味・遊びのことも要望でもなんでも構いません」と私から誘うのですが、ほとんどの職員が、自分が担当している仕事に関する話を話します。現在配属されている部署が直面する課題や問題点、仕事上の喜びや悩み等々。あるいは、現在の施設設備、制度に関する改善要望やそれ以外の意見も多く、職員が熱心に職務に取り組んでいる様子が伝わってきます。

要望に関しては、それが理にかなったもので、かつ、すぐに対応できるものは早期に対応しています。

職員のさまざまな話を聞いていると、それぞれの部署の現状が分かってきます。職員ミーティングは、職員とのコミュニケーションを図る場という狙いで始めたものですが、市役所という組織の内部状況の把握にも大変役立っています。職員ミーティングは、これからもずっと継続して実施していきたいと思っています。

川越市長 川合善明

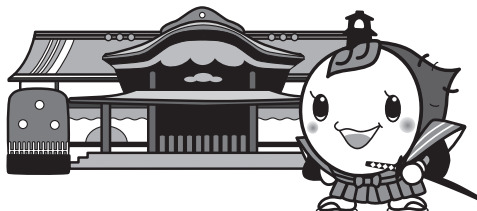
未来に向けて⑥

シテイセールスを進めています

政策企画課 224-5503

本市の人口は平成26年8月1日時点で34万9125人。そのうち生産年齢人口となる15歳から64歳までは、すでに減少が始まっています。それに伴い、税収の伸び悩みなど、市を取り巻く状況は一層厳しい局面を迎えようとしています。

シテイセールスとは、海外の方を含め、多くの方に川越の魅力を知ってもらうため、市の情報を効果的に発信する手法のひとつです。「川越に行ってみよう」「川越でビジネスをしてみよう」と思ってもらうだけでなく、市民の皆さんに、より一層の愛着を持って「いつまでも住み続けたい」と思ってもらいたい、今後の人口減少社会の中にあっても、ますます市の活性化を図っていくことを目指しています。



現在、2020年東京オリンピックのゴルフ競技が市内で開催予定となったことを契機に、国内外に川越の魅力を発信し、観光客の増加などにつなげるための取り組みも進めています。

今後は、現在策定中のシテイセールスの基本方針に沿って、「選ばれた自治体」になるため、効果的に情報を発信していきます。